

# 聖書宣教会通信

〒205-0017 東京都羽村市羽西2-9-3 Tel 042(554)1710 Fax 042(554)5562 振替・00150-6-34971

## 巻頭言

### 「信頼と聴従とに招かれて」

聖書神学舎教師 赤坂 泉

主の召しに応答した人々を「みことばに仕える者」として整えて送り出す。それが聖書神学舎に託された主のわざであると私は理解しています。研修生との今秋のリトリートのなかでも、私どもの「原点」について今一度確認させていただいたことです。主が託して下さった使命のために学びと訓練の場が建て上げられ、保たれてきたはずです。しかし、主は私どもに厳しく問い続けてくださっています。いま、どのようにそこに立っているのか、と。

この頃、ミカ書の一節が心に留まっています。「その日、一主の御告げ—わたしは、あなたのただ中から、あなたの馬を断ち滅ぼし、あなたの戦車を打ちこわし、あなたの国の町々を断ち滅ぼし、要塞をみなくつがえす。」(5:10,11)自分の力や備えに頼る民は、主の厳しいお取り扱を通して、主に対する徹底した信頼と聴従とに招かれるのです。

そして、3年前に専任教師として奉仕に就いた最初のチャペルでイザヤ書3章から語った説教を思い出しています。万軍の主が、主の民から「ささえとたよりを除かれる」ことがある。すべての頼みのパンとすべての頼みの水を除いて、民の不信と不従順をさばき、ご自身に立ち返らせようとなさる。そのようなさばきの中に主の愛を認め、信頼と聴従を確かにしたい。

振り返って、聖書宣教会の直面させられてきた事態を直視するとき、イザヤとミカの時代と同じように今も主が私どもに迫っておられるのだと認めざるを得ません。一人の信仰者として、また一つの学舎として、まことに主にのみ信頼し、徹底して主に聴き、主に従っているか、と。また、ここから送り出されて行く者たちがそのような者たちとして整えられるための最善がなされているか、と。

目をあげて見回してみる時、主の民が、生ける主と主のみことばを拠り所として立つことを

おろそかにしているような現実があります。神学であることを放棄した実践(神)学が、みことばの権威を封じ込めるようにして教会の営みを支配しようとし、聖書だけでは不十分であるかのような考え違いが教会や指導者を惑わしています。信頼と聴従。まさにそのことが主の民に鋭く問われているのです。

私どもも自戒したいと思います。送り出されて行く者たちが、原典による釈義の訓練を馬や戦車のように頼りにして、その本来の目的である主のみことばに聴くことをおろそかにする危険があるかも知れません。優れた教師や指導者をささえとたよりにして、生きておられる主に従わなくなるという危険がいつもあります。民の数を数え、その戦力を誇って高ぶりにとらわれるようなことがありませんように。

馬や戦車で勝ち取ったもので主を喜ばせようとするのではなく、「ただ公義を行い、誠実を愛し、へりくだって神とともに歩む」のでなければ、教会の営みは虚しいのです。動機と手段と目標設定とあらゆる面で自分のほんとうの姿をいつも正しくわきまえ知る民でありたいと思います。

人は、みことばにご自身を啓示なさる神を真に知り、みことばの光に照らされて自分のほんとうの姿を知るとき、自分に絶望して、自分というものを手放さざるを得ません。神に信頼し、聴従するほかはないことを認めざるを得ません。それが真に霊的である者の姿です。

聖書神学舎はみことばの学舎として、主がおゆるしくださる限り、その働きを続けさせていただくでしょう。みことばを学び、みことばに仕える者が、まことに神を知ることにおいて成長できますように。自分をほんとうに理解し、それゆえに全き信頼と聴従に生きる者とされますように。この願いをもって、ここで主に仕えさせていただいています。

教師会は、この度の一連の出来事を通して、主からの大きな問い掛けをいただいて、真に「神学舎的な」教育とは何であるのか、神学舎の「原点」を確認するために、夏に特別の教師会を持ちました。2008年5月に五十周年になる聖書宣教会の歴史を少し振り返りつつ、今、私たちは主から何を問われているのかを、共に考え、祈る時を持ちました。そこで、聖書神学舎らしいカリキュラムはどうあるべきなのか、みことばに根ざした教会音楽教育とは何であるのかを話し合いました。

秋の調整期間中に持たれたリトリートでは、研修生の兄姉たちと共に聖書宣教会の「原点」を再確認する時を持ちました。その中で、改めて、「主をのみ恐れ、主にのみ頼り、主にのみ従う」ことの重要さや、「(A) 当たり前のことを、(B) ばかになって、(C) チャンとやる」(ABC原則) ことの大切さを教えられました。

このような中で、ようやく、来年度に向けての準備を少しずつ始めさせていただいています。新年度の研修生募集に関しては、新聞などに積極的に広告を出したり、リクルートに出かけて行ったりすることは差し控えています。主がどのような方々を来年度に聖書宣教会にお送りくださるのか、ただ主に期待して待ち望んでいます。最近では、ホームページを見ての宣教会への問い合わせもあり、少しずつですが、来年度の入会希望者との面談の時を持っています。昨年と同様に、募集のための新聞広告は年明けまで休止します。

来年度の夏期研修講座は、「みことばに仕える」牧師・伝道者の継続教育に強調点を戻し、みことばを忠実に解き明かすための基本的な学びと交わりによる研修の時としたいと計画しています。

来春に卒業を予定している研修生たちは、卒業論文、卒業研究、卒業作品のためにいよいよ集中する時となっていますが、卒業後の進路について主の導きを具体的に求めていく時でもあります。主が、一人一人に相応しい働き場を備えてくださいますようにお祈りください。

遠藤嘉信師の病(筋萎縮性側索硬化症)が予想以上に速く進んでいます。折りにかなった助けと支えが得られますように、どうぞお祈りください。英国のリバプール大学での鞭木先生の海外研修の期間が守られ、所期の目的を果たして無事帰国されるようにお祈りください。

また、将来の神学教育を担って行く、主からの使命と賜物を与えられた若手教師の養成が急務です。教会と神学校はそのためにも祈り続けて行く必要があります。

現在は、代表役員代務者の遠藤嘉信先生と運営委員長を兼務している教師会議長が、聖書宣教会の運営の責任を担わせていただいています。間もなく新しい会長が就任して下さることになっています。聖書宣教会が、主の恵みによって、御旨にかなった神学教育を行っていただけるように、そのための体制作りや規約の整備のためにも、どうぞ憶えてお祈りください。主にありて。

キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。

コロサイ人への手紙3章16節

『『キリストのことばを 豊かに住ませ』とは、『みことば』に、私たちの心に、また私たちの間に、定住していただくことと言ったらよいでしょうか。……仮住まいではなく、『定住』する者として……私たちのうちに住んでいただくことです。そういう恵みの中で、キリスト者

は、賛美をもって、……互いに教え、互いに戒めるようにといわれているのです。……みことばをもって互いに語るということは、……みことばを神を賛美することとして歌い、互いに語りかけることなのです。」

(『賛美歌と神学』舟喜順一 1988年9月15日エヴァンゲリウム・カントライ主催 第一回讚美の集いにおける講義より)

救い主の聖名を賛美申し上げます。

「みことばの賛美」は、岳藤豪希先生から教えられた教会音楽科の理念です。前号で「賛美の学校への夢(まぼろし)を見ています」と書きました。そのまぼろしを思いつつ過ごしている中で、舟喜順一先生ご自身が纏められた上記の講義録を読み、「みことばの賛美」について

新しく教えられています。

かつての賛美の学校スコラ・カントルムは、残念なことに会衆から離れ、会衆から賛美を奪ってしまうという結果にもなりました。これからの賛美の学校が同じような道をたどることなく、「知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、……感謝にあふれて心から神に向かって」歌うことを学ぶ場であるよう心から願い祈ります。

「……ただ『みことば』を歌うのではなく、信仰者として、理解し、確信し、信頼を持って生きるものとして、みことばにより、賛美歌を歌う」(前述 『賛美歌と神学』)ことを学び、主の教会に仕える備えと訓練の場としての教会音楽科のために、これからも、お祈りお支えくださいますようお願いいたします。

## 「立ってベテルに上れ。」(創世記 35 章 1 節)

泉キリスト教会協力牧師、元教師会議長 後藤茂光

昨春、聖書宣教会からの文書によって初めて知らされた「出来事」に私たちはみな大きな衝撃を受けました。事後の対応が遅きに失したこともあり、諸教会の主にある兄弟姉妹たちにも大きな波紋を及ぼしました。

しかしこのことの処理解決のため、また聖書宣教会の出直しのため、新責任役員会が発足し、教師・職員の方々が並々ならぬご尽力をされていることに心から感謝しています。

さて聖書宣教会のため続けて祈っている者の一人として、何かを書かせていただこうと思ったのですが、言うべきことはすでに「聖書宣教会通信」の最近号にも書かれてあり、老骨の私が言うべきことはほとんどないように思われます。屋上屋を重ね敢えて言うならば、「原点に帰れ」ということでしょうか。

1. 主を恐れ主の召命を確信して、主の教会に仕える牧師・伝道者を育てること。

主がお召し下さり、お遣わし下さるとこ

ろへはそこがどんな処であれ、そこに赴き、そこで主の教会に仕え通そうとする牧師・伝道者を育てることを再確認すること。

2. 聖書信仰(聖書は誤りのない神のみことばであるとの信仰)に立って聖書を学びつつ、みことばに仕える働き人を育てること。

福音派の教会がアイデンティティを失い、福音派の崩壊が進みつつある現状を直視し、危機感を失わずに教育すること。

3. 主にならい、愛と謙遜と忍耐の限りを尽くし、みことばをもって信徒を育てることができる器となれるよう、聖書宣教会という研修の場で生活訓練を受けさせ教育すること。

聖書宣教会は、寮生活とチャペルや研修室などにおいて、神学的な学びや聖書語学だけでなく、御霊による愛と謙遜と忍耐などの靈性を身につけることを生涯求め続けることができるよう共に学ぶこと。

主にあつて、続けてお祈りしています。



為の働きを再開したい、というのが教会のニーズでした。

前半に、祈祷会での証し、教会学校、子どもプログラムのチラシ作りと配布、使われていなかった事務所の大清掃をし、後半では、子ども映画会、教会学校、礼拝での賛美と証し、アイスクリームパーティをしました。

テーマ聖句の「主よ、現してください」に期待して、祈りつつ備えていきましたが、一人も来なかったらどうしようか、と思うこともありました。しかし、主は36人の子どもたちを集めてくださいました。宣教の主体は主ご自身であると痛感させられます。子どもたちが、教会に繋がり、主と共に歩む人生を選択することができるように、祈りに覚えたいと思います。

主が現してくださった恵みの数々を覚えて感謝の報告とさせていただきます。 (岡本)



## 長良キリスト教会 (岐阜)

(田村将・佐野慶・宮崎成郎・芳田秀貴)

長良チームは男性四人の個性豊かなメンバーで、豪雨の中予定より4時間近く遅れて長良に到着しました。その後も連日雨は降り続け、屋外で予定されていた子供集会もどうなるかと危ぶまれましたが、その当日だけ嘘のように晴れ渡った空が与えられ、主は多くの子供たちを集会に送ってくださいました。

子供集会や特別賛美、証し、お奨め、説教など、八日間の多岐にわたる奉仕には欠けも多くなりましたが、私たちの無力さを超えて、多くの恵



みをいただいたキャラバンでした。メンバー同士でも、初めて顔を合わせる方々との関わりにおいても、キリストという共通の土台にあることを確認することができ、主にある交わりの豊かさを改めて感じさせられました。

岐阜の地にあっても、教会に集う方々がおられ、主を礼拝し、証ししておられる現実を目の当たりにすることができ、宣教のみわがが確かなにされていることを覚え、大きな励ましを得ました。 (田村)

## 青梅東宣教キリスト教会 (東京)

(鈴木善雄・横手有子・竹元献・東沙織)

聖書宣教会から5kmの所で、今年4月より礼拝が始まった教会です。シュカト宣教師一家により、宣教と牧会の働きがされています。今回の特徴の一つは、宣教会からの通いで、二つ目は、リーゼンペラ派遣の7名のドイツ人姉妹たちとの共同伝道でした。

青梅は宣教の難しい地区です。その中で、私



たちがドイツ人と日本宣教の難しさを共に学びつつ、共に伝道奉仕にあずかることができ、感謝でした。

駅前での路傍伝道を共同で行いました。ドイツ人姉妹たちには初の経験となり、母国では是非やりたいと話していました。私たちの企画の公園子ども集会では、彼女たちが支え、ドイツフェスタでは私たちが支援しました。

言葉と文化の違いがあっても、私たちは主にあって一つであることを改めて知る機会となり、宣教と伝道への強い思いを共に持ちました。

今回のキャラバンを通し、私たちは福音を宣べ伝える時、私たちが何者なのかを知り、宣教する相手を良く知ることの大切さを教えられました。(鈴木)

聖書宣教会のために祈ってくださる皆さまに  
心から感謝しています。  
近況と祈りの課題をお届けします。

- 11月11日の「賛美礼拝」では「よみがえりの主、キリスト」に思いを向けて賛美をささげ、遠藤勝信先生による説教を通して主のことばを聞きました。今年はチラシなどによるご案内はしませんでした。外來の80名ほどが出席して下さり、ともに礼拝をささげました。
- 11月15日は後期の「祈りの日」として過ごしました。「荒野の日」というテーマのもとで主の前に静まり、講師の大和昌平先生から「人のこない所へ」と題する説教を聞き、主との祈りの交わりのために一日を取り分けて用いました。
- 今年度の卒業・修了を目指している研修生10名は、卒業論文などの学びの課題に取り組み、また奉仕の導きを求めて祈りの備えの中にあります。どうぞお祈りください。
- 研修生、教職員を主が支え、すべての必要を満たし、また、主のみこころに正しく応答して歩む者としてくださるように。休会中の中野渡姉の闘病と回復を主が支えてくださるように。
- 遠藤嘉信先生は、ALS（筋萎縮性側索硬化症）との闘いの中にあります。症状の進行が続いており、主の特別の助けが必要です。先生とご家族、和泉福音教会のために。なお、和泉福音教会（03-3325-9903）から文書「遠藤嘉信牧師のためのとりなしの祈りのお願い」が発行されています。
- 新年度の入会を考え、祈っておられる方々からの問い合わせや見学希望があり、感謝しています。今の聖書宣教会に主が託して下さろうとする方々が導かれるように。
- 日本と世界の各地で主に仕えている同窓生の働きを、主が整え、支えてくださるように。
- 教会や地域の祈り会などから祈禱課題の送付のご要望をいただくことがあり、感謝しています。ご希望がございましたら事務局までお知らせください。

編集後記・・・

クリスマスの喜びに心を向ける季節です。まことの神が人としておいでくださった事実、このお方が私たちにもたらす救いの恵みを多くの人々にお伝えできるよう、主が主の教会を祝福してくださいませうように。

学舎の歴史を記録するために過去の資料を収集しています。資料提供にご協力いただけます方は、是非事務局までご一報いただけますようお願いいたします。(A)